

## 5 たばこ

### 健やか山梨21 - 2008年版 -

#### <現状と課題>

- 禁煙・分煙施設認定数は平成19年12月末日現在で1,145施設
- 喫煙経験のある中高生の存在
- 全年齢層の喫煙率と比較して、20歳代の男女の喫煙率が高い

#### 基本指針

##### 《取り組みの方向性》

- 禁煙・分煙施設の増加
- 防煙教育の推進
- たばこの害の普及啓発
- 禁煙支援の実施

## ◆ 評価

目標設定	対象	目標値	ベースライン値	中間評価 あるいは2008 年版策定時	直近実績値	評価
未成年者の喫煙をなくす	男(中学1年)	0%	1.5% (H18)	—	0.9% (H23)	B
	女(中学1年)	0%	1.1% (H18)	—	0% (H23)	A
	男(高校3年)	0%	6.6% (H18)	—	3.6% (H23)	B
	女(高校3年)	0%	2.3% (H18)	—	2.6% (H23)	C
公共の場及び職場における分煙の徹底	公共場、職場	100%	70.4% (H10)	95.0% (H18)	96.3% (H22)	B
禁煙支援プログラムの普及		100%	6.0%	7.1%	37.0% (H22)	B

A 目標に達した      B 目標値に達していないが改善傾向にある      C 変わらない  
D 悪化している      E 評価困難

#### 【現状と課題】

○未成年者の習慣喫煙者とは、1カ月に1回以上喫煙した者をいう。未成年者の喫煙率のデータベースはH18のもの(健やか山梨21～2008年版)である。当初の計画にも、中間評価でもデータはなかった。H18に教育関係機関の協力を得て、中高生の調査を行い、県内未成年者の喫煙率が把握された。

○中高生の習慣喫煙者の割合は、全体的には改善傾向にある。教育現場の敷地内禁煙の取り組み、たばこの害についての学校現場の教育、青少年健全育成の社会環境整備の影響があると考えられる。

○「H23子どもの喫煙等母子保健関係調査」では、中学生回答者のうち「父親が喫煙している」と回答した者は32.8%、「母親が喫煙している」と回答した者は16.6%であり、子どもたちの家庭内受動喫煙の影響が懸念される結果であった。

○「H22喫煙対策実施状況調査」では、男性喫煙率は減少傾向であったのに対し、女性の喫煙率は横ばいとなっている。

○「H23県民健康づくり実践状況調査」では、男性の喫煙率は20から40代で3割を越えていた。同調査で、喫煙していると回答した人のうち47.9%の人が「たばこをやめる意志がある」と回答していた。

○「公共の場及び職場における分煙の徹底」の具体的な指標は、県内の事業所を対象に実施している「喫煙対策実施状況調査」で、「何らかの喫煙対策を行っている」と回答した事業所の割合である。敷地内禁煙に取り組んでいる事業所が増加している現状があるものの、受動喫煙の防止に効果がないとされている「不完全分煙を実施している」という回答の事業所もある。

○禁煙支援プログラムについては、増加傾向であった。

#### 【今後の方向性】

○未成年者への防煙教育の推進は今後も、関係組織及び関係機関との連携を図りながら取り組んでいく。家庭内の受動喫煙対策として、母子保健の課題としての取組みがこれからも必要である。

○たばこをやめたい人が卒煙できるための支援環境づくりが必要である。

○公共の場及び職場における受動喫煙対策の取り組みの推進については、禁煙・分煙施設の増を図ると共にたばこの害についての普及啓発を継続し展開する。

#### 【参考】 健やか山梨21推進会議、構成団体の取組みの一部(H23)

健やか山梨21推進会議	世界禁煙デー・山梨禁煙週間「たばこの煙のない環境へ」ポスターのバス車内掲示と配布
山梨県薬剤師会	禁煙支援窓口の強化、会員への禁煙サポート薬局登録推進及び禁煙サポート薬局の周知
山梨県看護協会	たばこを考える病院づくり研修会、イベント時の禁煙相談
山梨県調理師会	飲食店におけるたばこ対策の取組みについての講演会、日本調理師会作成の禁煙ステッカー周知
市町村	(昭和町)(市川三郷町)思春期体験学習、 (韮崎市)(笛吹市)(市川三郷町)禁煙教室、 (大月市)妊娠届出時での喫煙に関する指導
県教育委員会 スポーツ健康課	公立学校の敷地内禁煙の促進
県 各保健福祉事務所	小・中・高、事業所への出前健康講座